

# 「おめでとう」のもう一つの意味



女子短期大学学長  
河見誠  
KAWAMI Makoto

女子短期大学は2020年度、創立70周年を迎えました。2021年3月13日より、記念式典「70年の歩みを感じる集い」をオンライン配信しています。とてもおめでたいことではありますが、単純に喜ぶことに躊躇する気持ちもあるのが正直なところ。それは、女子短期大学が2019年度以降の学科学生の募集を停止し、まもなく閉学を迎えるという状況にあるからです。しかしやはり私たちは「おめでとう」という祝辞に対し、「ありがとう」と素直に応答したいと思います。それが女子短期大学に繋がり、共に教えあい学びあってきた者にとってふさわしい姿勢だからです。

3月16日に女子短期大学の卒業式を挙行しました。コロナ禍の中、何とか対面で「おめでとう」という喜びを、学生教職員共々分かちあう時間を持てたことはとても幸いでした。そこで私が

学生に贈った告辞は次のようなものです。タイトルをつけるとすれば『おめでとう』のもう一つの意味』です。

皆様、卒業・修了おめでとうございます。しかしなぜ「おめでとう」なのでしょう。無事卒業できることはとても嬉しいことですが、夢が実現したからでしょうか。充実した幸せな人生の一步を踏み出せるからでしょうか。

聖書の中でも「おめでとう、恵まれた方」（ルカによる福音書1章28節）という言葉をかかれた人がいます。しかも天使からです。最高の祝福です。それはイエスの母となるマリアです。まさに「誕生おめでとう」です。もちろん、いのちが生まれてくること自体、どんな状況でも、それ自体おめでたいです。さらにマリアはイエ

スという世界で一番有名な人の母親になったのですから、恵まれているようにも思えます。

しかしマリアの人生は決して輝かしく喜ばしいものではありませんでした。イエスの生涯を記した福音書の中で、マリアへの言及は驚くほど僅かですし、明るくありません。馬小屋での出産ですから、そもそも望ましい子どもの生まれ方ではありませんでした。またマリアは、イエスが成人してから、他の息子たちと共にイエスに会いに行ったとき「わたしの母とはだれか私の兄弟とはだれか。」と突き放され（マタイによる福音書12章48節）、最後には十字架につけられる息子を見なければなりませんでした（ヨハネによる福音書19章25節）。

そのようなマリアの将来を見通しながらも、天使はなお「おめでとう、恵まれた方」と言う

のです。なぜでしょうか。天使は、マリアにイエスを託すことを伝えました。それはイエスがこの世に送り出すことを通して、マリアに神と人をつなぐ役割、人と人をつなぐ道ぞなえの役割が与えられたことを意味します。「おめでとう、恵まれた方」という言葉は、本人の夢や幸せの実現に対してではなくて、その人にかできない神と人、人と人を「つなぐ」生き方が与えられたとき、発せられるのです。これに対し、マリアは、「つなぎ役」という「サーバント」に徹します、という応答で「ありがとう」を表現しています（「わたしは主のはしためです」ルカによる福音書1章38節）。

ヨセフは結婚前に子どもを宿したマリアを去らせようとした。そのような扱いをされることがわかっていながら、しかしマリアは「はしためです」サーバントになります、つまり「その役割を引き受けます」と言いました。そのときマリアには、自分の将来、また自分が産んだイエスの未来については、何もわからなかったはずですが、先は見通せないけれども、今与えられた役割を決意を持って引き受けるのです。

古代ローマ帝国時代、西暦250年頃、「キプロスの疫病」が流行しました。疫病と飢えによりおびただしい死者が出てローマ帝国が衰退していくのですが、キリスト教会は逆にそこから栄えていきます。なぜか。教会史の父と言われるエウセ

ビウスによれば、世の多くの人々は感染者を見ると、近しい人さえも見捨てて逃げ出していたのに対し、当時のキリスト者は「死んでいく者たちの面倒を見、その埋葬に心砕き」ました。また「飢えのために衰弱しきつた街中の大勢の者を一箇所に集め、すべての者にパンを与え」ていった、その愛の行為の力によると説明されます。（『教会史・下』講談社学術文庫230頁）

「役割を引き受ける」とはときに厳しい決断ですが、それは人に仕える愛の決断です。人と人をつなぐ、いのちを生かす役割を引き受けるとき、その愛の行いは光り輝き、人々を生かし、祝福されます。天使の言う「おめでとう」とはこのようなことを意味するのでしょうか。

例えば今のコロナ禍のように、普通に考えればあまりおめでたくないかもしれない状況で、「おめでとう」、つまりこのときにあなたが選ばれました、と言われたとき、素直に喜べないかもしれません。しかしそこで感謝し、マリアのように「はしためです、仕える者です、サーバントです、用いてくださいと応答して、与えられた役割を覚悟と責任を持って引き受けるならば、また、ローマ帝国のキリスト教徒のように多くの人たちが避けてしまうようなことであっても、人のために、いのちのためにできることを私たちはやろうと勇気を持って立ち上がるならば、その歩みは間違いなく祝福されたものに

なります。皆様一人ひとりが今から送り出される場にあつて、愛の力を發揮して、人と人をつなぐ働き、いのちを支え生かす働きへと歩んでいられることを期待し、祈っております。その意味で、皆様一人ひとりに、今だからこそ、卒業・修了「おめでとう」と申し上げたいと思います。

女子短期大学は21世紀を迎える節目に、それまでの50年の教育とその成果を振り返りまとめ直す形で学則を大きく改正し、「社会のあらゆる局面で積極的な貢献をなし得る覚醒した女性の育成」を教育理念に掲げました。聖書の中で覚醒つまり「目を覚ましていなさい」というイエスのメッセージは、苦難、終末といった厳しいテーマの中で語られます（マルコによる福音書13章）。

単純に喜べない状況でも、先が見通せない状況でも、たとえ非常に厳しい状況であっても「そのときがいつかわからない」からこそ常に希望の光の源を見つめ続けて、「ありがとう」と役割を引き受け責任を果たす。それが「覚醒した女性」の姿なのだと思います。記念式典第二部のコンセプトは「stay alive」想いは生き続ける、強く生き続けるです。学生、卒業生をはじめとして女子短期大学に関わってきた者たちすべての中に、そのような「覚醒した心」が生き続けること（stay alive）、そのことによって希望と平和が波紋のように広がっていくことを祈ります。